



# みなみっ子

23号

令和8年6月5日(金)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標 自立 協働 創造

## 今日の校長講話より：みんなの笑顔がつなぐ「へいわ」のバトン

皆さん、おはようございます。今朝は濃い霧で見えませんでしたでしたが、沖縄の空はとってもきれいで真っ青ですね。そして、学校のまわりには、優しい緑の木々や、赤くて可愛いハイビスカスの花が咲いています。私たちが毎日、こうして元気に挨拶を交わし、友達と一緒に勉強したり、おいしい給食を食べたり、運動場で思いっきり走り回ったりする。皆さんは、これを「当たり前」だと思うかもしれません。

でも、今から81年前の1945年、この沖縄は、今とは全く違う景色でした。81年前の春から夏にかけて、沖縄では大きな戦争がありました。「沖縄戦」といいます。そのとき、沖縄の空は真っ青ではありませんでした。爆弾の煙で真っ黒に曇り、激しい音が響き渡っていました。きれいな海も、美しい緑の山も、みんな壊されてしまいました。そして何より悲しいのは、今の皆さんと同じくらいの、小さなお子さんや、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんなど、たくさんの一般の人たちの命が失われたことです。当時の子どもたちは、学校に行くことも、大好きな友達と遊ぶこともできませんでした。大切な命を守るために、逃げ隠れて、毎日お腹をすかせ、震えながら過ごしていたのです。どれほど怖かったでしょう。そんな恐ろしい戦争が、ようやく戦争が終わったとき、沖縄の街は何もかも失われていました。

生き残った沖縄の人たちは、お互いに励まし合いました。そのときに、みんなが心に刻んだ言葉があります。皆さんも、聞いたことがあるかもしれません。「命どう宝(ぬちどうたから)」という言葉です。「命こそ、何よりも一番大切な宝物である」という意味です。どんなに素晴らしい宝物やたくさんのお金があっても、命がなくなってしまったら何にもなりません。だから、お互いの命を、自分の命を何よりも大切にしよう。そうやって、沖縄の人たちは手を取り合って、この美しい沖縄をもう一度、作り直してきたのです。

では皆さん。「平和」って、どういうことでしょうか？戦争がないこと、爆弾が降ってこないこと。もちろんそれも平和です。でも、校長先生は、もっと身近なところにも平和はたくさんあると思います。朝、目が覚めて「おはよう」と言えること。友達が困っていたら「どうしたの？」って声をかけられること。給食を「おいしいね」って笑顔で食べられること。自分の好きなことに夢中になれること。そして、自分が自分らしく、安心して生きていけること。皆さんのまわりにある、たくさんの笑顔と安心。これが、平和ということです。もし、お友達とケンカをしてしまったら、どうしますか？意地を張らずに、「ごめんね」と言ってあやまること。これも、小さな平和のはじまりです。

今、世界を見渡すと、残念ながらまだ戦争が続いていて、悲しい思いをしている子どもたちがたくさんいます。だからこそ、ここ沖縄に生きる私たちが、「命どう宝」の心を一番よく知っている私たちが、平和を大切にしていかななくてはなりません。81年前に苦しくてつらい思いをした人たちが、命がけて守り、私たちに届けてくれた「平和のバトン」。今度は、皆さんがそのバトンを受け取る番です。皆さんのやるべきことは、難しいことではありません。お隣にいるお友達に優しくすること。家族を大切にすること。そして、自分の命、お友達の命を、世界に一つだけの宝物として大切にすることです。学級でもお家でもぜひ、平和について、命についてお話してみてください。みんなの優しい心で、この学校を、そして沖縄を、もっともっと笑顔でいっぱいにしていきましょう。

## みんなの笑顔がつなぐ「へいわ」のバトン

～命どう宝の心～

### 1945年の沖縄戦と今の空



81年前の空

真っ黒な煙に覆われた81年前の空と、今の美しい青空を対比します。



今の空



### 命どう宝(ぬちどうたから)

「命こそ何よりも一番大切な宝物」という、復興を支えた強い思いです。

### 奪われていた「当たり前」



当時の子供たちは学校へ行けず、暗い「ガマ」で震えて過ごしていました。

## 今日から君が受け取る「平和のバトン」

### 日常の中にある「平和」

おはよう!

挨拶

一緒に食べる給食

自分の好きなことに夢中になれる安心感のことです。

### 小さな平和のはじまり

ごめんね

ケンカをしても「ごめんね」と言える勇気が、平和への第一歩になります。

### 次の世代へバトンをつなぐ

友達や家族、そして自分自身の命を世界に一つだけの宝物として大切にします。